

(6月の果実見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
すいか類		10,919	95	11,541	162	108	153	13	0.1	千葉産(約5割)、茨城産(約2割)、群馬産、熊本産が出回る。山形産の入荷も始まる。大玉すいかは千葉産(約6割)、小玉すいかは茨城産(約5割)、群馬産が中心。大玉すいかは熊本産が4月に生育遅れで入荷減となったが5月からは回復基調、千葉産は7～10日の生育遅れで20日頃から入荷開始予定、昨年のような萎凋病の発生はみられない。全体では、特にこだますいかが生育遅れと作付面積減から前年をやや下回る見込み。
すいか		8,490	98	8,646	162	110	155	9	0.1	千葉産(約6割)、鳥取産、茨城産、熊本産が出回る。熊本産が4月に生育遅れで入荷減となったが5月からは回復基調、千葉産は7～10日の生育遅れで20日頃から入荷開始予定、昨年のような萎凋病の発生はみられない。入荷量はほぼ前年並の見込み。価格は、消費地の天候等の影響が大きい。食味良好で前年を上回る見込み。
こだますいか		2,428	90	2,895	165	105	148	4	0.2	茨城産(約5割)、群馬産(約3割)、千葉産などが出回る。茨城産は冷え込みにより生育は7～10日の遅れで1番果は小玉傾向だが、2番果は生育も回復し順調な出荷予想。群馬産は作付面積は減少だが、低温による生育遅れも平年並に回復してきている。入荷量は作付面積減により前年比1割減、価格は消費地の天候等の影響が大きい。食味良好で前年をやや上回る見込み。
メロン類		6,821	95	8,392	353	105	335	169	2.5	茨城産(約7割)、千葉産、熊本産、静岡産などが出回る。山形産の入荷も始まる。品種はアンデスメロン、アールスメロン、クインシーメロンなど。入荷量は作付面積減と生育遅れにより前年よりやや下回り、価格は入荷減を反映し、堅調推移から前年をやや上回る見込み。
メロン(アンデスメロン)		1,739	95	2,331	328	105	310	147	8.4	茨城産(約9割)が中心となり、山形産(約1割)などが出回る。茨城産は作付け減と春先の低温の影響により生育が遅れ気味、L、LA中心の小玉傾向となり入荷量は前年をやや下回る。主産地は鹿行(ろっこう)地域。全体としては前年をやや下回る見込み。価格は入荷減を反映し、堅調推移から前年をやや上回る見込み。
りんご類		2,844	90	3,014	307	110	313	-	-	青森産(ほぼ100%)が中心となる。品種はふじ(約7割)、王林、ジョナゴールド、むつなど。ふじが中心となるが、産地在庫量が前年より少なく、価格を見ながらの出荷が続く、入荷は前年比1割減の見込み。価格は、数量減により前年比1割増の見込み。
もも		1,625	99	1,143	549	102	700	-	-	山梨産(約8割)が中心となり、和歌山産などが出回る。主な品種は白鳳、浅間白桃など。山梨産は、一部の地域でばらつきが見られ、生育は前年より7日程度遅れており、中旬まではハウスもの、後半からは露地もの入荷となる。主産地は東山梨、東八代。入荷量、価格とも前年並の見込み。

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	入荷量(t)	占有率(%)	
おうとう		1,211	105	1,459	1,777	95	1,546	896	74	山形産(約7割)、アメリカ産(約2割)、山梨産、福島産、秋田産、長野産などが出回る。山形産は、本年は生育が遅れ気味で霜害・雹害の影響も見られるが、前年作柄不良で入荷減だったことから入荷量は前年をやや上回る見込み。価格は前年入荷減の単価高で推移したため、本年は前年をやや下回る見込み。山梨産は生育が若干遅れ気味で地域によりバラツキがみられる。露地ものはほぼ20日頃終了予定。
みかん類		1,014	98	1,152	874	102	858	-	-	佐賀産(約4割)、大分産、愛知産、愛媛産、長崎産などが出回る。ハウスみかんがほぼ全量を占める。佐賀産は生育期の日照に恵まれ生育は順調。S中心の小玉傾向だが、中旬頃よりM比率も高まる。入荷量、価格とも前年並の見込み。
ずもも		988	80	942	398	100	409	-	-	山梨産(約6割)、和歌山産(約3割)などが出回る。品種は大石早生、ソルダムなどで、露地ものが中心となる。山梨産は平年より5日、前年より10日くらい生育遅れ。入荷ペースは後半にずれ込み、前年前進化による入荷増の反動で前年を大幅に下回る見込み。大石早生は中旬から、ソルダムは下旬からの入荷予定。価格は、前年並の見込み。
ぶどう類		970	100	961	1,046	102	1,055	9	0.9	大阪産(約4割)、山梨産(約3割)、島根産、長野産などが出回る。品種はデラウエア(約7割)、巨峰、ピオーネ等。山形産デラウエアの入荷も始まる予定。入荷量は5月まで生育遅れだったものが回復し前年並の見込み。価格は前年並の見込み。
ぶどう(デラウエア)		710	98	699	961	102	959	9	1.2	大阪産(約5割)、山梨産(約3割)、島根産などが出回る。山形産の入荷も始まる予定。山梨産は前年より生育遅れだが、房型・着色とも良好となっている。主産地は東山梨、東八代。入荷量、価格とも前年並の見込み。
いちご類		441	105	480	714	105	852	-	0.1	秋田産(約2割)、栃木産(約2割)、群馬産、宮城産、茨城産などが出回る。産地は東北へ移動する。品種はとちおとめ(約4割)、とよのか、さがほのか、さちのか、章姫など。米国産なども入荷が始まるが、業務筋では国内産が使われる傾向にあり、販売は順調予想。入荷量、価格は前年をやや上回る見込み。
びわ		236	102	451	968	98	806	-	-	千葉産(約3割)、愛媛産(約3割)、長崎産、香川産などが出回る。千葉産は、天候が順調に推移したことから生育は7日程度早まっている。果実の肥大状況、食味とも良好となっている。主産地は安房(富浦、館山)。入荷量、価格とも前年並の見込み。
マンゴー		120	120	-	1,432	110	-	-	-	宮崎産(約3割)、フィリピン産(約3割)、メキシコ産、沖縄産などが出回る。宮崎産完熟マンゴーの生産量は前年比15%程度増、出荷時期は4月上旬から7月末までの見通し。全体の入荷量は前年比2割増の見込み。価格は中元需要が期待でき、前年比1割増の見込み。